

はしがき

地価高騰やオフィス開発などを中心とする一連の東京現象の中で、都心住宅問題とでも呼ぶべき新たな住宅問題が発生している。これは、財団から研究費を頂いてこのテーマの研究（「都市計画的にみた都心居住のありかたに関する基礎的研究」）をはじめの一年半程前の時から較べると、益々鮮明になってきた。

この研究はそうした状況を視野の隅におきながらも、それとは少し距離をおいて、東京の都心地での住宅をめぐる土地利用、住環境の中長期的変化について基礎的分析を行ったものである。

なお、この作業を進めるうえで、昭和50年代の中頃に「都心モデル定住圏」に関する財社会開発総合研究所の一連の作業を参考にさせて頂いた。一部データの更新にあたるような作業も我々の研究の中に含まれている。これらの作業は現在の東京の都心住宅問題を考えるうえでも貴重な成果であると思う。

この調査研究は下の調査研究組織（カッコの中は分担を示す。所属はいずれも昭和63年3月時点。）、つまり私の研究室の何人かの大学院学生との共同研究である。

日端康雄	筑波大学社会工学系助教授 (全般 5章)
山野雄平	筑波大学環境科学研究科 (1～3章)
永見育子	筑波大学環境科学研究科 (4章分担)
宮沢克己	筑波大学環境科学研究科

私以外の作業は早くに終了していたのであるが、私の不手際で報告書の作成が大幅に遅れてしまい、財団の方にご迷惑をおかけしてしまったことをお詫び致します。

日 端 康 雄